# 府県向け

# サイレージ用トウモロコシの品種紹介

## 1 はじめに

昨年は台風に泣かされた1年となりました。上陸 した台風は過去最多で、各地で農作物に大きな被害 を与えました。九州では二期作の前作等の早穫りで は辛うじて収量を確保できたものの、5月以降に作 付けしたトウモロコシの収量は皆無の地帯が多く見 受けられました。また収穫できたところでも、台風 の影響で適期収穫が行えなかったり、倒伏して土砂 が付着したトウモロコシをサイロ詰めしたために、

表1 本土に上陸または接近した台風 (平成13, 16年)			
台風No.	台風名	期間	最大風速(m/秒)
平成13年			
11号	PABUK	8/14~8/22	45.0
15号	DANAS	9/3~9/12	52.5
17号	VIPA	9/17~9/21	37.5
平成16年			
2号	NIDA	5/14~5/21	70.0
4 号	CONSON	6/4~6/11	47.5
6号	DIANMU	6/13~6/21	77.5
10号	NAMTHEUN	7/25~8/1	57.5
11号	MALOU	8/4~8/5	15.0
15号	MEGI	8/14~8/19	32.5
16号	СНАВА	8/18~8/31	77.5
18号	SONGDA	$8/27 \sim 9-7$	65.0
21号	MEARI	9/20~9/29	60.0
22号	MA-ON	10/4~10/9	70.0
23号	TOKAGE	10/12~10/20	62.5

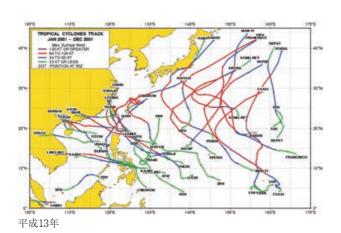


図1 平成13年と平成16年の台風経路図

不良発酵によるサイレージの品質低下が懸念されます。

このように台風が猛威を振るった昨年でしたが、 台風とトウモロコシ栽培との関係を調べてみました。図1、表1は平成13年と昨年の台風経路図と本州・四国・九州に接近した台風のデータです。平成13年は青刈トウモロコシの作況指数(都府県)が104の豊作年で、本土に上陸または接近した台風はわずか3個でした。平成16年は上陸した台風が10個とこれまでの記録を大きく更新し、九州から北海道まで各地で大きな被害を受けました。平成16年の青刈トウモロコシの作況指数はまだ発表されておりませんが、台風が通過した地域では、かなり悪い数値が予測されます。このように、長大作物であるトウモロコシの収量は台風に大きな影響を受けます。

当社では、耐倒伏性の強化を重点項目としてトウモロコシの品種開発を行っており、電柱が倒れたり屋根が吹き飛ぶような風にはトウモロコシも耐えられませんが、風速30m/秒程度の風が吹いたときにでも、倒伏の被害が少なく、折損しないトウモロコシの開発が可能となってきております。

以下に当社が販売する府県向けのサイレージ用トウモロコシの品種のご紹介を致します。

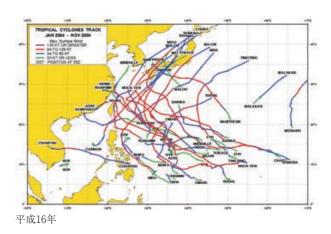


図1,表1ともに『宇宙航空研究開発機構(JAXA)提供』

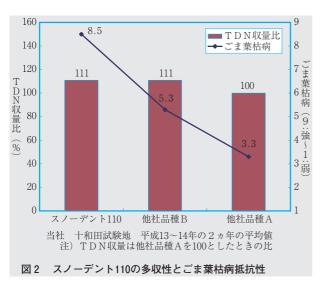
# 2 スノーデントシリーズのラインナップ

#### 1) スノーデント110 (DK567)

スノーデント110の最大の品種特徴は耐病性にあります。トウモロコシの主要病害であるごま葉枯病、すす紋病、根腐病、黒穂病に対して明らかに強い抵抗性を持ちます。特にごま葉枯病抵抗性は110日クラスの品種の中では極強で、中生品種並の抵抗性です。また収量性も良好で、特に雌穂は稔性に優れているため、実入りが極良で、TDN収量が多収な品種です(図2)。ここ数年は異常気象が原因でトウモロコシに発生する病害も多種多様で、予測がつきませんが、このような環境でも安心して栽培できるのがスノーデント110の強みです。関東地域ではハイグレインソルゴーとの混播にも適します。また、西南暖地では二期作の前作に利用すると、4月上旬播種で7月中旬には収穫が可能です。

#### 2) スノーデント114 (DK708)

稔実性に優れた品種のため(**写真1**), 雌穂収量が



120 110 103 105 105 105 102 98 100 94 収90 **里比** 80 **%** 80 75 70 ■スノーデント114 ■ゴールドデントKD640 60 宮崎研究農場 熊本試験地 千葉研究農場 岩手試験地 十和田試験地 (平成14~16年の3ヵ年の平均値)

図 3 スノーデント114の雌穂収量性 セシリアを100とした時の雌穂乾物収量比

多収(図3)で、高カロリーサイレージが期待できます。またこのクラスでは雌穂の登熟が早く、冷害年でも安定して多収が望めます。耐病性はごま葉枯病やすす紋病にも強く(図4)、スノーデント110同様に天候不順の年でも、病害の心配はありません。関東地域では高糖分ソルゴーとの混播に適します。また西南暖地では二期作の前作に利用し、4月上旬栽培なら7月中~下旬に収穫が可能です。

#### 3) スノーデント118 (DKC61-24)

草型が大柄で、茎葉ボリューム感に優れた草姿をしています(写真2)。収量性は大型で多葉な品種なために、特に茎葉が多収です(図5)。栽培ポイントとしては、大型の品種なので、栽植本数を6,000~6,500本/10aとし、やや粗植で栽培することが多収につながります。関東の比較的温暖な地域では高糖分ソルゴーとの混播に適し、西南暖地では二期作の前作に利用し、4月上旬栽培なら7月下旬に収穫が可能です。

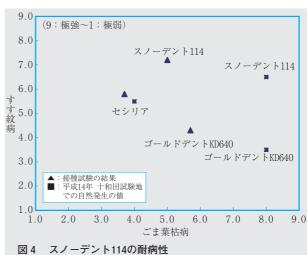


図4 スノーテント114の**耐熱性** (平成14年 十和田試験地,平成16年 宮崎研究農場,北海道研究農場)



図 5 スノーデント118の**茎葉収量多収性** セシリアを100とした時の茎葉乾物収量比



写真1 稔実性に優れたスノーデント114の雌穂



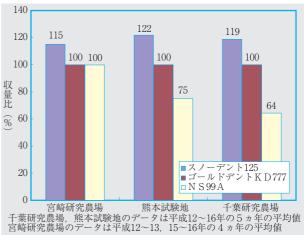
左 セシリア 右 スノーデント118 大柄で茎葉ボリュームに優れたスノーデント118の草姿



写真3 大型なスノーデント125の雌穂

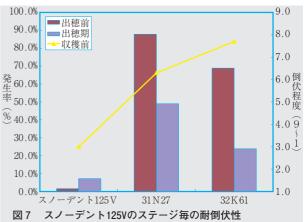
#### 4) スノーデント125 (DK740)

スノーデント125の最大の特徴は、雌穂収量が多 収な点にあります。雌穂は大型で(写真3),このク ラスでは総体乾物収量に対する雌穂収量の割合が高 く(図6), 高カロリーサイレージが期待できるの で, 酪農家に適した品種です。関東や西南暖地では 早播き程,雌穂収量は多収となるため,4月播きが 最適です。また、西南暖地では高糖分ソルゴーとの

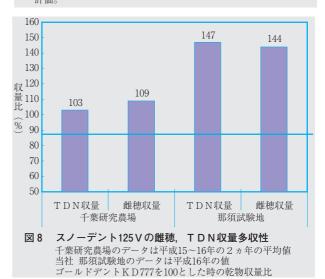


#### 図6 スノーデント125の雌穂収量多収性

ゴールドデントKD777を100とした時の雌穂乾物収量比



注)出穂前のデータは平成14年千研, 出穂期のデータは平成15年宮研の 値で倒伏発生率(%)で評価。 収穫前のデータは平成15年宮研の値で評点(9: 甚大〜1: 極少)で



混播に適しております。

#### 5) スノーデント125V (SH3817)

今春から関東・東北の一部地区にて限定で新発売 される品種です。長稈で着雌穂高が高いにもかかわ らず、耐倒伏性が極強です(図7)。雌穂は細長く、 ボリュームがあり、TDNが多収な品種です(図



写真 4 左 N S 99 A 右 スノーデント127 S 長稈・茎太・広葉のスノーデント127 S の草姿

8)。耐病性はごま葉枯病,すす紋病,さび病共に強く,初期生育が良好です。関東平地域での播種期は4月~6月上旬までと長く,使いやすくなっております。栽培上の注意点として,スノーデント125Vには薬害が生じる可能性があるため,ワンホープ乳



写真5 スノーデント王夏の草姿

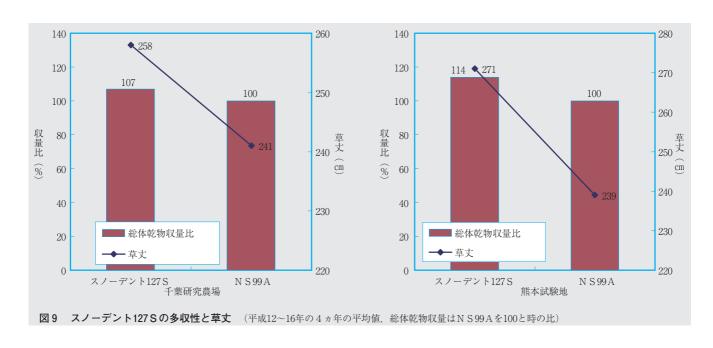


写真 6 左 スノーデント王夏 右 31 N 27

剤の使用は避け下さい。

# 6) スノーデント127S (SH0800)

スノーデント127Sの最大の特徴は草丈が高く, 太茎・広葉の大型草姿にあります(**写真 4**)。栽培環 境条件が良いと草丈は280cmから300cmを超え,「ト



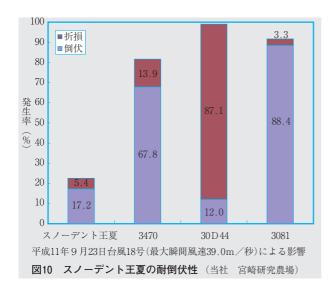
ウモロコシでとにかくガサを確保したい」と考えている農家さんにお薦めの品種です(**図9**)。草丈が高いので、倒伏が心配されがちですが、太茎で根張りがしっかりしていますので、安心して作付けできます(栽植本数は6,000本/10a程度が目安です。)密植すると稈が細くなり、稈長も伸びず、倒伏しやすくなるので、注意して下さい。収量性はスノーデント125とは対照的に茎葉割合が高い品種で、このクラスでは最大の乾物収量を確保できます。西南暖地では高糖分ソルゴーとの混播にも適しています。

# 7) スノーデント王夏 (SH9904)

スノーデント王夏は(写真5),西南暖地向きの品



写真 7 左 30 D 44 右 スノーデント王夏 南方さび病抵抗性に優れるスノーデント王夏



種で、九州から関東地域にかけての遅播き栽培に適した、西南暖地向けの品種となります。九州では播種適期が4月~8月上旬までと長いことから、様々な作付け体系に対応でき、使いやすい品種です。最大の特徴は耐倒伏性に優れている事で、スノーデントシリーズの中でも、極強の品種です(図10)。写真6は当社宮崎研究農場の5月播き試験圃場で撮影したもので、8月下旬の台風16号(最大瞬間風速39.4 m/秒)による倒伏被害の様子です。殆どの市販品種が全面倒伏している中、スノーデント王夏だけは倒伏の発生が少なく、写真の通り立っていました。

また,ごま葉枯病,さび病,南方さび病(**写真7**), すす紋病に対して極めて強く,収量の年次変動が少ない安定した品種です。

# 3 おわりに

今年の天候がどうなるか予測できませんが、トウモロコシを栽培する上で、品種力で解決できることには限界があります。基本栽培技術を忠実に守ることが安定多収への重要なポイントです。土づくり、肥培管理、播種、雑草管理(除草剤の選択)、収穫時期、サイレージ調製、どれか1つでも手を抜くと、低収となったり品質の良いエサをつくることが出来ません。

一昨年は冷害,昨年は台風の被害と2年続けて,トウモロコシ栽培には厳しい年となりましたが,トウモロコシの品種開発を行うで,耐病性や耐倒伏性を検定するには適した年でした。当社では,このような厳しい環境下での試験結果をもとに,新たにRM110~125までの3品種を選抜し,来年以降の新発売に向けて今春から試作を開始します。今後更にスノーデント系トウモロコシのパワーアップを図っていきますのでどうぞご期待下さい。

# 訂正してお詫び申し上げます。

「牧草と園芸 2004年11月号」 掲載15ページの右記の写真説 明に間違いがございました。

#### ≪誤≫

写真(右:カーフミルクAT 左:他社代用乳)



写真(右:他社代用乳

左:カーフミルクAT)

